

日本フランス語学会第 347 回例会

2024 年 6 月 15 日 (土) 15:00-18:00

於 名古屋外国語大学名駅キャンパス MW07 教室

公共掲示物の行為促進型表現に見られる人称性の日仏対照研究  
－意味論と語用論のインターフェース－

岸本 聖子(愛知県立大学)/谷 智子(関西外国語大学)

【要旨】

フランス語と日本語の言語景観において見られる表現に次のようなものがある。

- (1) Je monte, je valide
- (2) エレベーター内では会話を慎みましょう

いずれも掲示に見られる文で、一種の命令文と解釈される。両者の共通点として次の点が挙げられる。

- －語用論的に「指示・命令」の意味が含意/解釈されることから、各言語における他の典型的な指示文・命令文に比して有標である。
- －フランス語の<je V>という形式、及び、日本語の「V-(よ)う」「V-ましょう」という形式は、本来いずれも話し手の「意志」を表す。
- －どちらも 1 人称単数主語をとるが、これらが行為促進表現として機能した場合、動作主は読み手である。

以上の点で、各言語における他の典型的な行為促進表現(仏: 2 人称に対する命令文, 日: ~ (て) ください など) と異なり、より話し手と聞き手の在り方が問われる文形式である。しかしながら、これらの解釈がどのように語用論的に産出されるのかについては議論の余地があり、また、具体的に対照研究もなされていない。

本発表ではこれらの表現が掲示という<書き言葉>であることに注目し、①事態把握の観点からどのように語用論的解釈が導き出されるか、また、②これらの表現がどのように掲示としての指示・命令のストラテジーとして存立しているかを議論する。